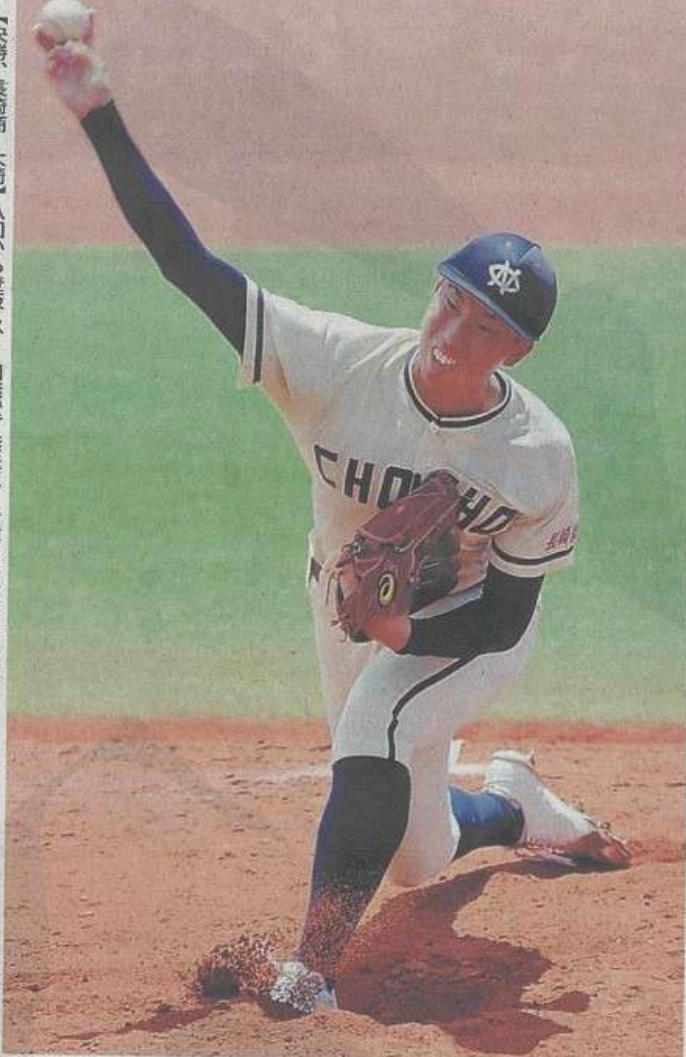


長崎商は全5試合44イニング、無失策を貫いて栄冠をつかんだ。その堅守の中心は大谷直前までエースナンバーを争った背番号「1」城戸と「10」田村の両右腕。今季のチームが誇るダブルエースは最後まで信頼のリレーで、「城戸がいたからこそ勝てた」「田村だから安心して見ていた」と互いの実力を認め合った。

練習試合など過去の対戦を踏まえて先発は田村。3-0

信頼のリレー最後まで



【決勝、長崎商―大崎】八回から登板し、3回無安打無失点と好投した長崎商の城戸

＝県営ビッグNスタジアム（山下浩輔撮影）

の三回、2死球に3安打と横飛で追いつかれた。「目標は完封だったので、いこうろはあまりない。仲間に助けられた」と反省に終始したものの、その後も横手投げの生命線である内角球や大きく曲がるスライダーを気迫で投げた。7回粘投で1点ビハインド。終盤勝負を見据える中で役目を果たした。

ここから気を吐いたのは本格派の城戸。野手兼任で打撃も中軸を担う力があるが、ベンチスタートで「流れを持ってこれるピッチングをしたか

ヒーロー

城戸、田村のダブルエース

った」とフルパワーで登板した。その通りに八、九回で計4奪三振。低めのスプリットやチェンジアップがきえた。1人の出塁も許さず、十回は自ら中前打で口火を切って決勝のホームに滑り込んだ。

あとアウト一つからの同点勝ち越しへ流れを呼び込み、逆に十回2死無走者と相手を追い込んだ場面は守備タイムを取った。はやる気持ちで落ち着かせて、しっかりと最後の打者を仕留めた。

「入学時から甲子園で勝つことが目標だった。細かな制球をもっとつけないと」（田村）。「残された時間は短いけど、一日一日を大事に準備したい」（城戸）。さあ、憧れのマウンドが待っている。

（石田慶介）

諦めない姿に感動

○5-4の十回2死、高々と上がった飛球が長崎商の捕手伊藤のミットに収まった。その瞬間、えんじ色の帽子で鮮やかに染まった三塁側スタンドは歓喜に包まれた。この日は生徒、教職員約360人をはじめ、保護者や卒業生らが球場に駆けつけた。NHK杯も応援に来ていた3年の桑原ひなたさんは「最後まで笑顔で諦めない長商野球選手たちが見せてくれた」と真っ赤な目で喜びに浸った。

2016年に甲子園出場を果たしたOBの姿も。当時、1-0で競り勝った県大会決勝で適時打を放った井上弘太さんは「自分たちの時より打てるチーム」とたたえ、二塁手澤山の兄、礼宏さんは「甲子園で勝って、校歌を歌ってほしい」と5年前は逃した聖地での初戦突破に期待を寄せていた。

（則行優志）

沸く長商スタンド



2016年以來の甲子園出場を決めて喜びを爆発させる長崎商の応援席
＝県営ビッグNスタジアム長崎



▽1回戦、専大松戸―長崎商 1回裏長崎商無死満塁、宮城が先制の右投手を放つ。甲子園(林田友広撮影)

第103回 全国高校野球選手権大会

第9日

第103回全国高校野球選手権大会9日(月)甲子園球場で2回戦4試合が行われ、長崎代表の長崎商は専大松戸(千葉)を6-2で破り、4強入りした。1953年以來となる甲子園2勝を挙げた。長崎商は第12日の3回戦第3試合(対日13時)で神戸国際大付(兵庫)と対戦する。このほか、盛岡大付(宮城)と明徳義塾(高知)、神戸国際大付(兵庫)が3回戦に進んだ。

長崎商 15安打で快勝

専大松戸に6-2 3回戦へ

きのうの結果

▽2回戦 (13時39分)

専大松戸(千葉)	002	000	000	2
長崎商(長崎)	200	030	10x	6

▽2塁打 横山▽犠打 石井、加藤、横田、宮城、城戸、鬼塚▽盗塁 大坪(1)横田(1)▽失策 大坪、大町、宮城▽暴投 岡本、田村
▽試合時間 1時間59分

【評】長崎商が2試合連続の2桁となる15安打を放って快勝した。長崎商は相手右腕2人の低めの球にうまく対応して単打を重ね、同点の五回は2死から勝負強く3本の適時打で突き放した。先発城戸は勝負どころでのチェンジアップが効いて5回2失点。六回から登板した田村は強気に内角を攻めてゼロに抑えた。守備は三回まで3失策と課題を残したが、中盤以降は遊撃横田らが好守を見せた。専大松戸は先発岡本が打たれ、2番手深沢も勢いを止められなかった。攻撃は一、九回の併殺が響いた。

適時打で3点を勝ち越し。六回にも鬼塚の適時打で1点を加えた。投げては先発城戸が5回2失点を粘り、救援田村は4回を1安打無失点で好投した。盛岡大付は本塁打など14安打で神戶国際大付を4-0で下した。渡辺が八回の死球で完全試合を続け、1安打の試合連続の好投。明徳義塾はノースアジア大明桜(秋田)に8-2で快勝。1-1の五回に森の適時打で勝ち越し、終盤も加算した。神戸国際大付は高山学園(山口)に4-3で競り勝った。阪上が一回に先制の2点本塁打、七回に勝ち越し打を放った。投げては6安打で完投した。

心地よい金属音が次々と甲子園に響いた。1回戦の13安打を上回る攻撃で春の関東王者をのみ込んだ長崎商。持ち味の堅実な野球に随所で積極性を加えてみせた。長崎大会はチーム打率3割未満だった選手たちの目覚ましい成長に、西口監督も「顔つきも言葉のやりとりも、どんどん良くなっていく」と喜んだ。初回の先制が大きかった。

堅実さと随所に積極性

右腕に対してキマンだった左打者で2桁安打を記録。2-2から3点を勝ち越した五回も一死一塁から大町がカウント3-0で高めの直球を迷わず引く張る攻めの姿勢を見せた。詰まりながらも右前に落ちて後続の3連続適時打を演出。計15安打でも長打はゼロと、コンパクトにこなす。コンパクトにこなす。しき、徹底も、全体的な力強さにつながった。県勢が夏の甲子園で2勝を挙げたのは2007年の長崎日大以来、14年ぶり。とりわけ打ち負けた印象が根強かった中、それを尻事し振り切った。今大会出場4校で唯一の市立校が九州勢でもただ一つ3回戦に進んだ。

リードオフマンで3安打の大坪は「二人一人が逆方向を意識し、いいヒットチャーでも対処できる。次も自分からチャンスをつくりたい」とさらなる快進撃を誓っていた。(石田慶介)



▽2回戦、専大松戸―長崎商 6回から登板し、4回無失点で好救援した長崎商の田村(甲子園 林田友広撮影)

田村好救援 4回無失点

○1回戦に続いて6回から救援した長崎商の田村が4回無失点好投。「絶対リードを守ろう」とマウンドに上がった。六回からのカウントが1-0だった。田村は「自分も緊張はしていた。強い気持ちでテンポをいけた」と安堵(あんど)した。捕手吉木が「ミットを構えた通りに来るボールが多かった」と振り返ったように制球が良く、中でも打者の懐を深く狙った。田村は「いいように決まった。1打だけですが、甲子園で捕手投げか、1回も135mを2試合連続で記録。直球の調子がいい。スライダーなども有効だった。点を上げた後の8回は、わずから球で3者凡退に仕留めるのがいい内容だった。2試合連続先発打つても2安打で打点だった城戸とともにダブルエースを張る右腕。2回裏と暴投でピンチを招いた。最後回は気持ちの問題で反省。勝たせざるを得ない状況。自分もチームにリズムを持っていく」と力強かった。(石田慶介)



【2回戦、専大松戸―長崎商】5回裏長崎商2死一、三塁、鬼塚が左前へ適時打放ち甲子園(林田友広撮影)

頼もしい7番打者だ。身長194cm、体重96kg。七回は2死三塁から再び左前打。ワンバウンドになる変化球に空振りして追い込まれた直後、落ちながら外へ逃げる球をマーク。2試合で4本の適時打と気を吐いている。右の大砲は「当たって選手の後の大事な打順。チャンスで回ってこなくていいので、一本出せてうれしい」と会心の勝利に浸った。2-2の五回に2点を勝ち越して、なおも2死一、三塁で相手は継投を要する。1回戦で選抜Vの明豊(大分)を完封したアノ注目投手をマウンドへ送って流れを切り出した。その1球目の直球を捉えた。西口監督が「あれは深沢君もびっくり」と評した貴重な左前打。押せ。(石田慶介)

鬼塚中押しダメ押し 頼もしい7番打者

頼もしい7番打者だ。身長194cm、体重96kg。七回は2死三塁から再び左前打。ワンバウンドになる変化球に空振りして追い込まれた直後、落ちながら外へ逃げる球をマーク。2試合で4本の適時打と気を吐いている。右の大砲は「当たって選手の後の大事な打順。チャンスで回ってこなくていいので、一本出せてうれしい」と会心の勝利に浸った。2-2の五回に2点を勝ち越して、なおも2死一、三塁で相手は継投を要する。1回戦で選抜Vの明豊(大分)を完封したアノ注目投手をマウンドへ送って流れを切り出した。その1球目の直球を捉えた。西口監督が「あれは深沢君もびっくり」と評した貴重な左前打。押せ。(石田慶介)

長崎商 6 - 2 専大松戸

【専大松戸】	打	得	安	点	球	犠	失	打
0	4	1	1	0	0	0	0	375
1	3	0	0	0	0	0	0	500
2	3	0	0	0	0	0	0	500
3	3	0	0	0	0	0	0	500
4	4	0	0	0	0	0	0	333
5	4	0	0	0	0	0	0	286
6	4	0	0	0	0	0	0	333
7	1	2	0	0	0	0	0	1000
8	3	1	0	0	0	0	0	200
9	3	1	0	0	0	0	0	200
計	32	2	2	5	5	2	0	311
【長崎商】	打	得	安	点	球	犠	失	打
0	2	5	1	3	0	1	0	444
1	3	4	2	2	0	0	1	571
2	3	4	1	1	1	0	1	500
3	3	3	0	2	1	1	0	375
4	3	3	0	1	0	0	0	800
5	3	0	0	0	0	0	0	000
6	3	0	0	0	0	0	0	666
7	3	4	0	6	0	0	0	125
8	4	0	1	2	0	0	0	143
9	4	0	1	0	0	0	0	406
計	33	6	6	1	4	2	3	406
投手	回	打	安	点	球	失	防	率
手本	4	24	5	1	4	1	5	0.64
城戸	3	14	4	2	0	1	1	0.73
田村	4	15	2	2	0	0	0	0.00

ひと言

◆西口博之監督 何とか前半を2、3失点でと考えていた。その通りの展開になった。城戸が辛抱強く、立ち上がりのピンチを無失点でしのいだのは大きかった。攻撃は強いボールをはじき返す練習の結果が出て想像以上によくなった。◆松井心助右腕手(3年) (五回に見逃せばボールになる低めの変化球を捉えて4点目の適時打)フルカウントから力を抜き、芯で捉えれば外野に行くと思った。体が反射的に動いてバットに当たった感じ。◆城戸悠希投手(3年) 強い相手に勝つことができ本当によろしい。甘く入ったら打たれると思っていたので、とにかく低めに丁寧にと心掛けた。九州勢として皆さんにパワーを与えられるよう頑張りたい。◆古木仁捕手(3年) ピンチを背負う場面が多かった中、投手陣がよく粘ってバックにも助けられた。田村はしっかり腕が振れて直球がコースに決まった。次も強豪が相手だけど、気持ちで絶対負けられない。◆青山隼也主将(3年) (この日からプラスバンドが球場でです)吹奏楽部が収録してくれたCDがきのう(21日)届いた。3回戦に進んで長崎商の演奏を流そうと試合に臨み、それをかえられてよかった。

専大松戸・岡本「歯車が狂った」

○専大松戸は1回戦で完封した深沢は、甲子園初登板の岡本が先発のマウンドに立った。五回途中失点と波目をもたらす。「自分も緊張はしていた。強い気持ちでテンポをいけた」と安堵(あんど)した。捕手吉木が「ミットを構えた通りに来るボールが多かった」と振り返ったように制球が良く、中でも打者の懐を深く狙った。田村は「いいように決まった。1打だけですが、甲子園で捕手投げか、1回も135mを2試合連続で記録。直球の調子がいい。スライダーなども有効だった。点を上げた後の8回は、わずから球で3者凡退に仕留めるのがいい内容だった。2試合連続先発打つても2安打で打点だった城戸とともにダブルエースを張る右腕。2回裏と暴投でピンチを招いた。最後回は気持ちの問題で反省。勝たせざるを得ない状況。自分もチームにリズムを持っていく」と力強かった。(石田慶介)

きのうの結果

▽3回戦 (13時19分)	
長崎商(長崎)	200 000 020
神戸国際大付(兵庫)	010 100 200
(延長10回)	1 5
	2x 6

▽本塁打 西川1号①(城戸)
▽三塁打 関、大坪▽二塁打 夜久、山里、西川、武本▽横打 沢山3、能登原、川西、西川▽盗塁 横田(2)栗原(2)▽失策 山里▽暴投 城戸
▽試合時間 2時間51分

【評】延長までもつれた好ゲーム。長崎商は十回、大坪の左越え適時打で1点を勝ち越したが、その裏に2点を奪われて敗れた。長崎商は初回2死二、三塁から、城戸がコースに逆らわずに右前へはじき返して2点を先行。2-4と逆転された後の八回には、大坪の適時打などで同点に追いついた。城戸、田村、再び城戸に低めに集めて好投。遊撃横田らバックも好守で支えた。最後は力尽きたが、攻守両面で長崎商の粘り強さが際立った試合だった。神戸国際大付は阪上、西川の3、4番をはじめ、打線が力強かった。サヨナラ打を放った西川は4安打2打点の活躍だった。

神戸大付6 - 5長崎商			
【長崎商】	打	得	失
城戸	100000	0	0
関	000000	0	0
三浦	000000	0	0
大坪	000000	0	0
栗原	000000	0	0
西川	000000	0	0
川西	000000	0	0
能登原	000000	0	0
沢山	000000	0	0
夜久	000000	0	0
山里	000000	0	0
計	34584810310	350	

【神戸大付】			
打	得	失	打
阪上	0	0	0
西川	0	0	0
川西	0	0	0
能登原	0	0	0
沢山	0	0	0
夜久	0	0	0
山里	0	0	0
関	0	0	0
三浦	0	0	0
大坪	0	0	0
栗原	0	0	0
城戸	0	0	0
計	37612659311	260	

投	回	打	得	失	防	率
城戸	4	3	0	0	3.36	2.38
関	3	2	0	0	3.32	4.41
三浦	1	2	0	0	3.32	4.41
大坪	3	1	0	0	3.32	4.41
栗原	4	2	0	0	3.32	4.41
西川	2	1	0	0	3.32	4.41
川西	2	1	0	0	3.32	4.41
能登原	3	2	0	0	3.32	4.41
沢山	3	2	0	0	3.32	4.41
夜久	2	1	0	0	3.32	4.41
山里	3	2	0	0	3.32	4.41

ひと言

◆西口博之監督 県大会から諦めずに粘り強い野球をやった選手を褒めてあげたい。昨秋はリアクションの薄いならチームだったが、春からいかにどんどん力をつけた。成長を感じている。
◆大坪迅三塁手(2年) 勝るとも思ったが、最後は自分の打球がいいところに行かずにサヨナラ負けした。悔しいの一言。先輩にはまた来年戻ってこいと声を掛けられた。
◆大町航太中堅手(3年) 最後は相手の力が上回ったが、最高の引退試合になった。昨年の3年生の分まで甲子園に来て、校歌を響かせることができた。強豪相手に自分たちの野球ができた。
◆田村瑛登投手(3年) 本当に悔しいが、最後にこういう試合ができた。いい仲間と野球ができた。甲子園のマウンドは楽しく投げられ、自分の力以上のものをらせる場所だった。
◆青山準也一塁手(3年) あと一つ勝ってベスト8に駒を進めたかった。(十回に先頭で左前打)後ろにつなげば絶対かえしてきれると思っていた。最高のチームのキャプテンができてよかった。
神戸国際大付・青木監督「本当に苦しかった。九回の満塁で栗原に決めてほしい。選手が本当によくやってくれた。神戸国際大付・西川主将「チャンスでなかなか得点できなかったりと苦しい場面があった。勝ち切れたのは大きい」。神戸国際大付・武本選手(2番手で登板し好投)「低めに球を集めて、丁寧な打球ができた」。神戸国際大付・楠本投手(先発で五回途中2失点)「バランスを崩して、投げ急いで体が開いてしまった」。

好ゲーム 長崎商あと一歩



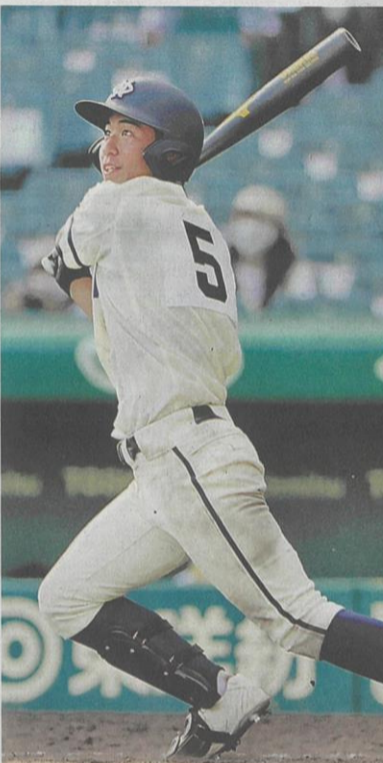
神戸国際大付に逆転サヨナラ負け

【神戸付6-5長崎商】 日頃の甲子園での野球を楽しんだ。長崎商は延長三回サヨナラ負けで8強を逃したが、自慢の粘り強さを十二分に発揮。スコアボードが示す得点以上の濃密だった3回戦に、背番号1の城戸は「試合一試合みんな選手たちの笑顔とワッポースは、チームの魂を背中に背負って来た」と、悔しいながらも誇りを語った。延長十回は、大坪の左越え適時打で1点を勝ち越したが、その裏に2点を奪われて敗れた。長崎商は初回2死二、三塁から、城戸がコースに逆らわずに右前へはじき返して2点を先行。2-4と逆転された後の八回には、大坪の適時打などで同点に追いついた。城戸、田村、再び城戸に低めに集めて好投。遊撃横田らバックも好守で支えた。最後は力尽きたが、攻守両面で長崎商の粘り強さが際立った試合だった。

自慢の粘り 随所に発揮

4-4で迎えた九回裏は城戸が再登板。1死満塁のピンチにワントリ3-10になったが、そこから空振り三振と右飛に残留した。両球を記録した残塁は26。緊追した守り合いの中、何度かは自慢の選手たちの笑顔とワッポースは、チームの魂を背中に背負って来た。延長十回は、大坪の左越え適時打で1点を勝ち越したが、その裏に2点を奪われて敗れた。長崎商は初回2死二、三塁から、城戸がコースに逆らわずに右前へはじき返して2点を先行。2-4と逆転された後の八回には、大坪の適時打などで同点に追いついた。城戸、田村、再び城戸に低めに集めて好投。遊撃横田らバックも好守で支えた。最後は力尽きたが、攻守両面で長崎商の粘り強さが際立った試合だった。

2年生が攻守で躍動



大坪 終盤に長短適時打

【3回戦、長崎商-神戸国際大付】 10回表長崎商2死二塁、大坪が左越えに勝ち越しとなる三塁打を放つ。=甲子園(林田友広撮影)

長崎大会では3回戦と決勝で2度、リードされた状況で度々、リードされた状況で度々、リードされた状況で度々...



久松、青山 貴重な働き 代打出場

○総力戦を挑んだ長崎商は久松、青山の代打陣が終盤に安打を放ち、ともに後の打撃でダイヤモンドを一周、八回に中前打で好機を築き、同点のホムにも滑り込んだ久松は一集中していた。(走塁は)「気持ちが前に出てあげた、頭からいてきた。甲子園でのプレーをかみしめた。」

○総力戦を挑んだ長崎商は久松、青山の代打陣が終盤に安打を放ち、ともに後の打撃でダイヤモンドを一周、八回に中前打で好機を築き、同点のホムにも滑り込んだ久松は一集中していた。(走塁は)「気持ちが前に出てあげた、頭からいてきた。甲子園でのプレーをかみしめた。」